

Daichikyo News

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第29号

2026年の希望と願い

2年前にバングラデシュに行きました。学校づくり、識字教育、親がいないなど子どもに教育を受けてもらう支援をしている団体のツアーです。世界でも最貧国の中、街にはごみがあふれ、とてもじゃないけれど清潔とは言えず、ましてや物乞いをする子どもや障がい者が街にたくさんいてその横で露店が並んでいる。そして、政権交代！というデモ隊。そんな中で我々が訪ねた学校に行けるのは一握りです。彼、彼女たちの夢は大きく、弁護士、医者、先生などなど。その責任者の方と学校の話になり、「日本には学校に行けない不登校の子どもたちがたくさんいる」という話をしたときに不思議な顔をしておられました。日本の大学を卒業されていて日本語は得意な方が、「不登校」ということを説明するのが非常に困難でした。学校に行きたくてもいけない貧困の子どもたち、学校があっても行けない、行かない子どもたち、これらを考えると非常に複雑な思いです。

日本では「不登校」の子どもたちが40万人（こんな数字はあてにならない）いるといわれています。大地協加盟施設は保育所、子どもの家を運営し、人生において大切な時期を共に過ごしています。11月のドッヂボール大会の子どもたちの様子ははち切れそうな笑顔、そして優勝を狙っている真剣な顔、そして、指導員と子どもたちの楽しそうな様子。

この子たちがどこでどうなって学校へ行けなくなってしまうのか・・・。

今年ももうあとわずか、大地協の今年はどうだったでしょうか？課題もたくさん残っています。不登校の子どもたちのこと、セツルのこと、大地協の運営のこと（ぶつぶつ独り言）

今後も安心安全を基本としてみんなで盛り上げていきましょう。

2026年一番の願いは「平和」二番の願いも「平和」です。来年はそんな年となりますように。

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

企画委員会《広報宣伝部》

発行日：2025年12月第29号

担当窓口：望之門保育園 佐伯 剛
さえき たけし

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記 →

QRコードをご覧ください。



大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど
上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。



町の様子

日本の古いバスが走っていて実は扉がない!!



エンゼル教会の子どもたちと

大阪市地域福祉施設協議会 会長
社会福祉法人 育徳園 常務理事 加藤 久美



農村で奨学金を受けている学生たちと

児童部会は、大人も子どもも成長できる場

児童部会に子どもたち（中高大学生）が参加するようになって今回が4回目となりました。3年前に名古屋キリスト教社会館の法人本部のある名古屋市南区での開催の時に、初めて会った大阪の子どもたちが本当に年々たくましく成長していることを感じました。自分が疑問に感じていることについて「なぜ?」「どうしてだろう?」と考えることからはじまり、それについて自分の言葉で意見が言えることができることがすごいと思います。

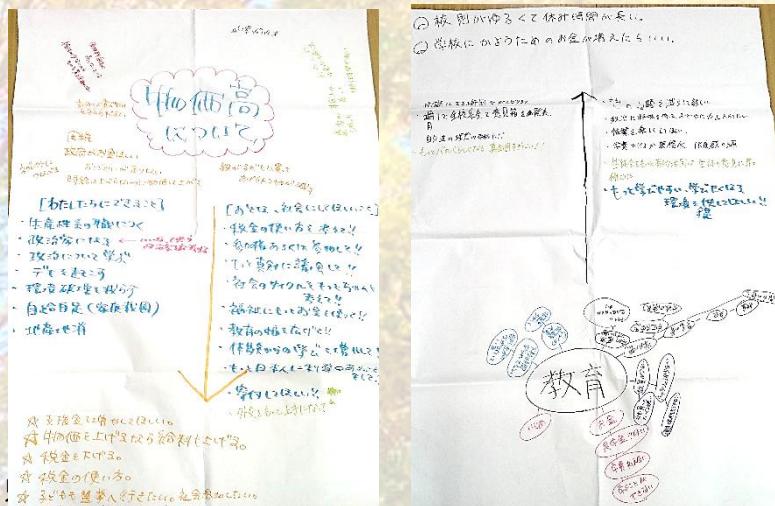
今回は、大人分科会と子ども分科会を分けて実施し、子どもだけの空間と時間の中で議論をしてもらいました。全体わかつあいタイムの時に中心になっていたのは、やはり大阪のメンバーたちでした。子ども分科会の中でもきっと主体的に、積極的に話し合いに参加していたことが想像できます。

名古屋のメンバーは、今回の参加は中学生が中心で大学生が数名。児童部会には初めて参加する子がほとんどでした。まずは、参加することが大事で、何か少しでも得るものがあればいいと思い参加を募りました。研修後のアンケートには「いろいろな地域の人の意見が聞けてよかったです」という感想があり、それだけで十分だと思いました。継続して参加することで、次は自分の考えや意見を言えるようになるといいと思います。名古屋の中高生はここからスタートするという気持ちです。そういう意味では、毎回大阪のみなさん（子どもはもちろん、指導員さんたちも）の活力やエネルギーには感心します。東京の子どもたちも継続して参加してくれている子もいます。これからも子ども同士、同世代の交流で影響しあえることが理想です。

個人的な児童部会の想いを言うと、私は、第3回児童部会がセツルの家で開催された時の研修会に、初めて参加しました。琵琶湖の湖岸で水の上に台を置き、そこにパネラーが座り様々な議論がされました。研修後は琵琶湖で泳ぎ、夜はみんなで語り合いました。こんな自由で楽しい研修があることに驚き、その時のインパクトは今でも忘れません。その後の児童部会でも、大阪の西成のまちを歩き地域の住民と関わり、岐阜では夜、鵜飼の実演を間近で見たり、三重では松坂牛でバーベキューをしたり、研修はもちろんですが、それぞれの地域で指導員さんたちと交流したことがすごく思い出に残っています。児童部会で「地域福祉」を学び、児童部会で出会った様々な地域の先輩方から学んだことが、今の自分の働きにつながっています。

ここ最近の児童部会では、「子どもの権利」を子どもたちと一緒に学ぶ中で、子どもたちの考え方、視点、価値観を知ることができて、これまでとは違った楽しさや刺激があります。世代を超えた新たな出会いがあり、大人も子どもも成長できる場になっていると思います。大阪や東京の子どもたちの姿に刺激を受け、ちどり児童会のOBを中心とした名古屋の子どもたちを育てていくことが自分の課題のひとつだと感じようになりました。今後も有意義な研修として継続していきたいです。最後に、名古屋の子どもの代表として大学生の子の感想を紹介します。学童の頃に自分が見ていた子です。大学生になり学童でアルバイトをするようになり、児童部会も東京、大阪、今回の名古屋3回参加してくれました。来年は社会人になり、学童とは離れてしまいますが、OBとしてまた児童部会にも参加してくれると嬉しく思います。

「子どもの考え方や意見を『大人としての今の自分』や、『最近まで子どもだった自分』の2つの視点で聞きながら参加しました。今回もとても新鮮で、子どもたち一人ひとりで考えていることが違い、たくさんの意見を取り入れることができました。普段学童で小学生を関わっているので今回学んだことを活かしていくといいなと思いました。子どもの気持ちを受け止め、尊重することをこれからも大切にしていきたいです。」（ちどり児童会OB/大学4年生/学童パート指導員：中川由奈さん）



子ども分科会での子どもたちの記録

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館

ちどり児童会 楠木 徹



児童部会 会場の様子



児童館廃止から20年

西成児童館の会 出水 敦美
大地協 個人会員

2006年1月12日、關市長が市政改革マニフェストを発表し、13日には「児童館3月末廃止」の見出しが新聞の一面トップにおどり、利用者、地域の人たちだけでなく職員、市の担当課や委託先の社協の人たちも驚く出来事となりました。児童館廃止の新聞報道があった1月13日、西成児童館ではわが町にしなり子育てネットホームページ編集委員会と子育て情報紙に載せる子育て座談会が開かれました。このためお母さんたち20数名が集まっておられ、児童館廃止の報道に「えっ！どうして？」「なんで…」「7月に市長トークで私たちが発表したとき、關市長は子育て支援を約束したんよ、あれはなんやったん」と驚きと失望の声があがりました。次の日には、児童館の若いボランティアもかけつけてきて「児童館ほんまに廃止になるんか？」「これからどうなるねん？」と聞いてきました。子どもたちも「じどうかんつぶれるの？」「あそぶところなくなるやん！」「じどうかんこわさんとてほしい」中学生も「みんなの声を聞かないかん」と児童館がなくなることについてというアンケートを作って持っていました。以降、お母さんたちも連絡をとりあって1月19日には「児童館・トモノス（勤労青少年ホーム）を救う会」を立ち上げ、署名用紙を作り活動を始めました。若いボランティアたちも廃止撤回の署名用紙を作り活動、この問題の特設インターネット掲示板情報掲示板（For Children BBS）を開設、また高校生がインターネットを活用して廃止反対・賛成のアンケートを作り、次々と動き始めました。一人でブログ「Help the 児童館大作戦」<http://youraid.exblog.jp/>を立ち上げ大阪市や市会議員さんに働きかけ、その活動を発信し続けている児童館利用者のお母さん。子育てネットに関わるお母さんが立ち上げた「にしなり子育て情報館（BBS）」でも動きを伝え合うなど若い人たちや子育て中の親などネットを通じてつながり、廃止撤回の動きが広がってきました。わが町にしなり子育てネットホームページの掲示板でも情報交換の場になるなどインターネットの活用が数多くありました。西成児童館では、日々の活動を（西成児童館の活動日記）<http://nishinari.blog26.fc2.com> ブログ発信していますが児童館廃止情報を聞いた利用者の声を伝えています。利用者の子どもたちも中学生の作ったアンケート用紙に意見を書き、市社協を通じて市に届けてもらいました。また、児童館の前に住むMさんたちは町内の人々に声をかけ、私たちも何かをしなければと児童館応援のグループを立ち上げその後ボランティア団体として活動を始めています。署名は、若いボランティアがとりまとめただけでも6,000人以上あり、西成区全体で13,000人と聞きました。この市長提案（市政改革マニフェスト集中改革プラン）の児童館廃止に関するパブリックコメントは852件と報告されています。こうした動きにマスコミも反応、様々な取材がありました。これを受け、3月末の大阪市会本会議で40年ぶりの全会一致の継続審議という事態となりました。その後5月議会で残念ながら、6月末大阪市の公立児童館全10館廃止となり57年の幕を閉じました。57年間の活動記録が検証されることもなくすべて廃棄されてしまったのが残念です。私は、こうした活動を目の当たりにし、利用者、地域の人たちの大きな力に改めて感動を覚えました。大阪市の児童館は、昭和24年（1949年）に3館設置、全国最初の公立児童館でセツルメントの流れをくむ地域福祉施設です。セツルメントは建物ではない人だといいます。これだけ多くの人たちが児童館存続でつながりを持てたことに感謝し、建物はなくても児童館の隣に松通公園がある。児童館に関わった人たちがいる。見守ってくれる地域の人々がいる。6月1日、建物を持たない「西成児童館」を立ち上げることとなりました。松通公園遊びの広場の活動が始まりました。上記は、大地協50周年記念誌「つながろう ひと、まち、そして夢」に寄稿したものです。あれから20年が経過し、残しておいた当時の掲示板でのやりとりやブログなどを読み返し、児童館とわが町にしなり子育てネットでのゆるいつつながりの人たちが、児童館存続の活動でそれぞれが主体的に動き、つながり、大きな力を発揮しているのが改めて迫ってきました。建物を持たない西成児童館の活動はそうした人たちを中心に2006年9月24日第1回松通公園遊びの広場を開催。2025年11月3日で93回を数えるまでになりました。この間多くの人たちがこの活動に関わり、つながりの場としての役割を果たしてきました。わかくさ保育園の小掠園長もよく応援に駆けつけてくれました。この遊びの広場は4回目から子どもの出番となる「かえっこバザール」も同時開催し、今も続けています。またわが町にしなり子育てネットの活動にも積極的に参加し一定の役割を果たしてきました。児童館で毎年実施してきたセツルの家でのびわこキャンプは、児童館廃止の後、小掠さんの力添えで2年間、わが町にしなり子育てネット主催という形式で幼児から中学生、保護者もスタッフとして参加できる形で実施。その後、小掠さんから「大地協が個人会員制度を作ったから会員になりますよ」推薦を頂き西成児童館の会としてセツルの家を利用することができ、建物を持たない児童館として今も続けています。私は箕面市に住んでいますが、退職後も西成にせっせと通うので、あるとき家族から「遠くへ行かなくても住んでいるところでやることがいっぱいあるでしょ？」といわれ、足下をすぐわれた思いでした。そんなとき民生委員になってほしいとの誘いがあり引き受け、地域福祉と関わることとなりました。個別のケースとともに地区福祉会（校下社協）の高齢者サロンや子育てサロンが身近な存在となりました。2013年、地元の小学校が新放課後モデル事業を受けることとなり市は民間会社（小学校プロダクション）に委託したことから問題となり地域と話し合いが始まり、私もそれに関わり、小学生の放課後事業に地区福祉会が地域プログラムを担当、地域の大人100人が学校に入りするふれあいプログラムをと昔遊びや手作り工作、ふれあい農園活動などに取り組み児童館での経験を役立てることができました。10年以上の関わりです。また最近では子育て中のお母さんたちと「人と自然をつなぐ会」を作り、お米作り、公園や川原、田んぼでの遊びの広場活動に関わったりしています。校区以外の活動では、大阪北部コミュニティカレッジ（ONCC）が主催する地域福祉を学ぶ科を1年間受講し、所属していた居場所作りをテーマにしたグループは終了後、2017年豊中市岡町で「おかまちこども食堂」を立ち上げ12月で117回を数えます。ここは文化住宅を借りて運営しているので狭く、公園で受付と遊びのプログラムを実施し、松通公園遊びの広場の活動が役立っています。箕面でもONCCと関わる人たちが運営しているSAこども食堂にも参加しています。これまで地域福祉に関わってきて施設側の活動にいたり、地域住民の活動にいたりで改めて住民主体ってなに？問い合わせています。

「若者は幻を見、老人は夢を見る」。長く生きていると夢が実現することが……。



大地協と出会って… そして『大地協は、ええで』

「なんでこんな所なん。最悪。」大地協と出会った第一印象。望之門学童クラブの担当になって1年目。「子ども研究会」に参加し、他施設の指導員Aさんが堂々とトイレに行くと宣言し、戻ってきて「お腹の調子」をあからさまに報告。行事の話の時も「自分、これ担当してな」とグイグイ押してくる感じに圧倒。今、思えば、とても緊張していた私の姿を見てフレンドリーに接して下さったかも知れませんが、当時は受け止められませんでした。

それから時を経て、今、私が思う大地協の良い所の一つは、『集う人や繋がっている人は、みんな仲間であり、良い時も困った時も一緒に考えようや！』というふうに感じています。

＜忘れられないエピソード＞ *杉本の記憶ですので、勘違いがあるかもしれません。

学童を担当している時、障がいを持つBさんが在籍。ドッジボールをする時は、Bさんのルールがあって、そばに必ず誰かがいて、当てる時はボールを転がして当たったら外野へ行くというものでした。それを、「ともだちドッジボール」に参加する時も採用してもらい、他施設の児童も受け入れてくれる姿に子どもたちの柔軟な心に感謝していました。

その後、学童担当から離れたある日、私の心に衝撃な出来事が起きました。同じように当時、在籍する障がいを持つCさんが、研究会でいろいろ議論をした結果「ともだちドッジボール」に参加できない…という情報。理由は理解できました。「怪我」をした方にも「怪我」をさせてしまった児童への配慮でした。それでも私の中には「大地協なのに、なんでやねん！」という気持ちが消えませんでした。障がいのある児童は、参加する機会を奪われがちなのに…心のモヤモヤを抱えたまま年月が過ぎました。

ある時、大地協の集まりがあり、「ともだちドッジボールに参加できない」と決めた時に関わっていたDさんと話す機会がありました。話をする中でDさんの物の考え方や想いに触れ、私が勝手に抱いていたイメージとは違う印象を受けました。今ならあの当時の自分の気持ちを伝える事ができるのではと思い、話しました。すると、Dさんから、「あの時の判断は、のぞみさんにとって、その児童にとってどうだったのだろうと…ずっと心の中にある」と話してくれました。当時の判断は、悩んで悩んで出した結果。みんな迷いながら、その時に最善と思われる事をしてくれていた事を知りました。「大地協は、ええな。ちゃんと話したら、響いて、一緒に考えて、返してくれる(かえってくる)…」を実感した瞬間でした。それからは、Dさんに会えば、お互いに声をかけあう関係となりました。(Aさんもです。)



渾身の1枚 これこそ『The 大地協』

素敵な笑顔がいっぱい！

大地協は沢山の社会福祉施設が加盟しています。法人や個人の考え方も違うし、やり方も違う「ごちやまぜ」な団体です。

それぞれの『特色』を持ちながら今後もこの関係が続いて欲しいと願います。

「最悪」からはじまった大地協。次世代に伝えます。

「大地協は、ええで。」

社会福祉法人 阿望仔
マナ乳児保育園 園長 杉本 照子